

課題名：小麦の多収と高蛋白質含有率を両立する省力施肥体系の確立

(令4～6)

内容：本県の小麦作では奨励品種「ふくほのか」、銘柄品種の「せときらら」が栽培されていますが、両品種共に多収品種のため、子実蛋白質含有率が低下しやすい傾向があります。開花期追肥により小麦の子実蛋白質含有率を向上させる施肥技術は示されていますが、開花期の追肥を人力で行うのは負担の大きな作業であり、作業の省力化が必要です。そこで、多収と高蛋白質を両立できる可能性が示されている「後期重点型施肥」に着目して、トラクタでの追肥作業を取り入れた省力施肥体系を確立します。

人力施肥は重労働



出穂後にトラクタで入るのは困難



追肥を省略すると

8～9%  
の蛋白質含有率

低収・低蛋白質の生育

省力施肥方法の確立



厳寒期追肥の検討



実需が要望する  
10～11%  
の蛋白質含有率

多収・高蛋白質の生育

[作物・経営研究室HPへ](#)  
[農業研究所HPへ](#)